

平成29年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価計画 統括評価表

1 本校の学校経営の基本方針

生徒がはつらつと活動する活力ある学校づくりと保護者・地域社会から信頼される学校づくりに取り組み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けることができる教育の実現に努める。

2 本年度の重点目標

- (1) 自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (2) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (3) 授業の工夫・改善と充実に努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせて、進路希望の実現をめざす。
- (5) 国際的視野を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

3 本年度の各課・各学年・各教科の取組

(1) 各課

ア 企画課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 学校評価のPDCAサイクルを確立し、実践内容の理解度を向上させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	着実な学校運営が感じられる。 普段着感覚の実践がよい。 2学科あっても一体感がある。	①生徒・保護者の認知度向上のため、ホームルーム活動やPTA関係の諸会合等を利用できるように取り組みたい。 ②学校評価研修会の内容や進め方、実施時期・回数などについて、検討を重ねたい。
	①学校評価計画についての認知度を80%以上にする。	①教員の認知度は88.4%で目標を達成したが、生徒61.8%、保護者71.2%であった。	(評定) B		
	②教職員による学校評価研修会の満足度を85%以上にする。	②「有意義な研修会であった」と回答した職員の割合は82.7%であった。	(所見) ①研修会の実施を通じて教員の認知度は上昇し、目標を達成した。生徒や保護者への広報についての課題が残った。 ②昨年度から研修内容に分掌協議を取り入れた。本年度はさらに、研修報告・視察報告を取り入れるなどの取り組みを加え、目標値に近づけることができた。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①(7) 教職員については、研修会等を通して評価計画についての共通理解を図る。 ①(4) 保護者及び生徒については、リーフレットやホームページ等を活用し、適切な資料提示を心がけ周知を図る。 ②研修内容及び方法については、管理職・指導教諭及び関係各課と協議し、一層の充実を図る。	①(ア) 職員研修会を年間3回実施した。そのうち2回は教科別研修、1回は分掌での研修として実施し、学校評価について理解を深めることができた。 ①(イ) ホームページへの掲載、PTA総会での資料配付などの広報に努めた。 ②班別協議だけではなく、研修会参加報告や視察報告などを取り入れ、研修内容の充実を図った。			
2 総合的な学習の時間の充実を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①学校の教育目標を達成するため、総合的な学習に時間がどのような役割を担うべきか、という視点から、生徒の探究活動や発表活動を盛り込んだ内容となるよう、全体計画の再構築を進めたい。
	①授業評価アンケートにおける授業満足度について、「満足している」と回答した割合を90%以上にする。	「満足している」と回答した生徒の割合は71.7%であった。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 1・2年生の年間計画の一部を変更し生徒の探究活動や発表活動を促すような内容を試みた。十分な指導計画とは言えなかったが、生徒の活動状況は概ね良好であった。		
	①(7) 進路に関する講演会及び体験的な活動を各学年1回以上行い、進路意識の高揚を図る。 ①(4) 生徒が主体的かつ積極的に授業に参加できるよう、話し合いや発表を取り入れた授業を行う。 ①(ウ) 生徒の進路実現に資する実践的な力を養えるよう、全体計画を再構築する。	①(ア) 進路に関する講演会を各学年で1回実施した。また、大学の模擬授業体験(University in徳北)を10月に実施した。 ①(イ) 第2学年において、調べ学習の発表会を2回実施した。 ①(ウ) 第2学年では、テーマを課した調べ学習を実施した。第1学年ではディベート体験を行った。			

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 P T A活動を活性化させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①周知方法などこれまでの取り組みをさらに進めるとともに、P T A活動を魅力あるものにして来校保護者数を増やしていきたい。 ①②学校評価アンケート項目と評価目標が合っていないのでアンケートの質問内容の見直しをしたい。（参加者名は人数から判断できるため）
	①学校評価アンケートの「PTA総会や学年部会に積極的に参加した」について、「参加した」と回答した保護者の割合を65%以上にする。	①61.2% 目標は達成できなかった。昨年とほぼ同数の参加者であった。	（評定） B	
	②保護者への案内文書について、全てホームページに掲載し、学校評価アンケートの「PTA活動についての連絡は適切である」について「適切であった」と回答した保護者の割合を85%以上にする。	②アンケート項目になかったため具体的な値は示せないが、案内文書は全て掲載した。	（所見） 人権の講演会や映画会への参加も増加していたことから、P T A活動に関心を持つ保護者はどの学校行事にも積極的に参加していたように感じる。 1学年保護者は熱心で本校教育に関心が高いと感じた。	
活動計画	活動計画の実施状況			
	①②P T A活動の案内・報告をホームページに掲載し、参加を促す。	①②適切に実施することができた。		

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 生徒の多様な進路目標の実現につながる教育課程を編成することで、主体的に学ぶ意欲・態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	本校の9割以上の生徒が、大学進学を希望している実態を踏まえ、関係学年・課との連携を図り生徒の進路希望把握に努める。また、大学入試センター試験の動向に対応するため、適宜、教科会や教育課程検討委員会、職員会議を開催し、教育課程の編成に細やかに対応したい。生徒の実態や大学入試制度改革への対応を図りつつ、幅広い進路志望に柔軟に対応できるような教育課程を今後も見直していく必要がある。そのため、各学年や関係する課との連携を図り、学校全体で見直しを図ることができる体制づくりが重要である。また、アンケートの結果をふまえ、保護者に対する本校の教育活動の広報についても見直しが必要である。
	①本校の教育課程について、生徒の進路目標に対応し、個性を伸ばし将来の希望を実現できるよう工夫されていると回答した割合を80%以上にする。	①本校の教育課程について、生徒のニーズや希望を実現できるように工夫されていると回答した者 (H28→H29最終の比較) ○教員 83.7%→87.0% ○生徒 89.0%→81.8% ○保護者 88.5%→75.6%	（評定） B	
	②教科会、教育課程検討委員会、職員会議等の開催回数を学期に1回以上確保する。	②職員会議、教育課程検討委員会、教科会は学期に各1回以上確保できた。	（所見） コース・科目選択について、予備調査を6月、9月、10月と3回実施したり学年集会での周知、該当生徒を集めての説明会と複数回にわたり、説明やデータ分析等を実施した。しかし、多様な生徒の希望に対応できるよう教育課程で自由選択科目を設けているが、少人数での開講が希望に沿えないという問題点がある。	
活動計画	活動計画の実施状況			
	①各学年や各課と連携し、生徒の学力や進路希望調査等を分析し、可能な範囲で履修学年や開設科目・履修単位数を見直す。	①生徒の成績や進路志望等について学年や各課と情報を共有し、生徒の進路目標や実態に即した教育課程や学校設定科目の設置を行った。		
	②教育課程や大学入試センター試験等に関する情報提供・交換や共通理解を図り、生徒の実態把握に努め、適正な教育課程を編成する。	②教育課程検討委員会、教育課程に関する職員会議等の機会を活用し、共通理解を図った。また、コース・科目選択予備調査を3回以上実施し、生徒の実態把握に努めた。（6月・9月・10月）		
2 生徒の目標を明確にさせ、主体的に学ぶ姿勢を育成することで、学習意欲の向上や学力向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	家庭学習ができている生徒とできていない生徒がそれぞれどのような生活を送っているのか調べ
	①教員において、教科指導における基礎基本の徹底を図っていると回答した者及び学習意欲の	①教科指導では、基礎や基本の徹底を図っていると回答した教員。	（評定） C	

	<p>向上や学力向上への取り組みができていると回答した割合を95%以上にする。</p> <p>②各定期考査において、欠点保持者数を10%以下にする。</p> <p>③各定期考査において、成績優秀者（80点以上）の割合を、25%以上にする。</p>	<p>(H27→H28→H29の比較) 98.2%→100%→96.3% 学習意欲の向上や学力向上への取り組みができていると回答した教員。 91.2%→91.2%→96.3%</p> <p>②各学期末における欠点保持者の人数と割合 (1学期末→2学期末) 1年(27人, 8.4%)→(27人, 8.4%) 2年(13人, 4.1%)→(38人, 12.0%) 3年(15人, 4.8%)→(38人, 12.1%)</p> <p>③各学期末考査における成績優秀者割合 (1学期末) (2学期末) 1年 24.1% 17.8% 2年 20.5% 17.0% 3年 43.8% 25.6%</p>	<p>(所見) 各学年、欠点保持者数は1学期末から2学期で増加となっており、10%以下は1年だけである。また、成績優秀者は2学期末で1・2年生が25%以下で、25%以上を達成できたのは3年生だけである。また、欠点をとる生徒の固定化や複数の科目での欠点取得など個々への対応が年々必要になってきている。基礎学力や学習習慣が十分身につけていない生徒への対応が急務である。</p>	<p>て、できていない生徒に個別に対応する策を考えてほしい。</p> <p>改善策に具体性がほしい。</p>	<p>機会を設けられるよう、行事計画を見直すことも重要である。1学期に比べ、2学期は進度も速くなり、学習内容も難しくなることも影響すると思われるが、夏季休業中から2学期にかけて、中だるみや目標を見失う生徒が増加することも欠点保持者数の増加の原因の一つと考えられる。粘り強く学習意欲の喚起を行い、スモールステップで目標達成を実感させる取組を継続して行うことが重要である。</p> <p>本校は、進学校であり生徒の進路目標は大学進学ではあるが、生徒の学習実態が伴わない。学習習慣の定着を図り、基礎学力を定着させるために、各教科、学年、各課の連携とともに、家庭との緊密な連携が重要である。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①研究授業週間を設けて（年間2回）、各教科における目標や効果的な指導方法等についての研究を行う。その際、授業評価を行うことで、指導方法の工夫や授業力の向上に努めるとともに、本校生徒の実態や課題について共通理解を図る機会を確保する。</p> <p>②各学期末考査前に「弱点教科補強指導講座」を開講し、苦手科目についてのポイントを指導することで、家庭学習の援助を行う。また長期休業中に「基礎学力養成講座」を開講し、基礎基本の定着に焦点を絞り、苦手科目の克服への援助を行うことで、欠点保持者数を減少させる。</p> <p>③集会等の機会を捉え、継続的な学習及び意欲の向上についての啓発を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①参観授業週間を1学期、2学期にそれぞれ2週間実施した。教科の教員と希望者による授業見学・評価を実施し、評価シートに所見を記入し授業力向上を図った。また、本年度9月より電子黒板が設置され、教科内でICTを活用した授業の研究を行った。</p> <p>②1学期末考査及び2学期末考査の前1週間に「弱点教科補強指導」を開講した結果、中間考査に比べて期末考査の欠点者数の減少につながった。</p> <p>③学年集会や学期末の各課連絡の機会を生かして、学校生活や学習習慣、学力向上等についての啓発を行った。</p>			
<p>3 生徒が明確な目標を持ち、主体的に学ぶ態度の育成ができる学習環境づくりや学校運営を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①年間行事計画を見直し、生徒の進路目標等、生徒理解が可能なように年間3回の面接週間を確保する。</p> <p>②1・2年の年間授業時数を法定時数の80%以上とする。</p> <p>活動計画</p> <p>①面接週間をはじめ、担任等が十分生徒理解に努められるよう、行事の見直しや校務の精選、学校支援システムの研究に努める。</p> <p>②各課・学年等と連携を図り、日程等を調整することで、授業時数確保に努める。また、月曜日の授業については、特別時間割に組み込むなどバランスをとる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①各学期1回の面接週間（1週間）を確保した。</p> <p>②平成29年度のデータはなし 平成28年度は1年29.0時数（82.9%） 2年28.9時数（82.6%）</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①面接週間は5分短縮授業とし各課・学年等と日程を調整し、面接週間中に他の予定を入れないように配慮した。</p> <p>②各月1回の校務運営委員会の機会を捉え、行事予定を月単位で見直し、円滑な学校行事運営に努めた。また、特別時間割で実施授業数の調整を図れるように計画した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 年間3回の面接週間の確保や各月1回の校務運営委員会は達成できた。また、年度途中のためデータはないが、本年度は授業カットや短縮授業をできるだけ抑えたので昨年以上に授業確保もできた。 学校支援システムについては導入4年目になり、システムの操作性も年々良くなり、ほぼ円滑に運用できるようになった。</p>	<p>個別対応の必要性を感じる。</p>	<p>面接週間は、短縮授業とし会議を設定しないよう配慮しているが、十分な時間とはいえない。生徒の進路目標や学習実態把握等の生徒理解や、適切なサポートができるよう、今後も行事計画の見直しや精選、関係学年・課との連携を図り、調整をする必要がある。生徒理解に充てる時間確保のため、校務の情報化や見直しなど学校全体で検討することも必要である。</p>

4 学校支援システムの適正運用に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		学校支援システムを活用するために、出欠処理や成績処理以外の機能について、より理解を深めるよう努めていく必要がある。
	①期限までに全ての出欠入力を完了する。	①期限までに全て完了した	(評定) B		
	②期限までに全ての学事処理を完了する。	②期限までに全て完了した。			
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 帳票がスムーズに出力できるよう、出欠未入力について連絡を毎週行っている。		
	① 1週間単位で出欠未入力を連絡する。	①毎週実施した。			
	②入力方法についての研修や案内をテスト時や期末に必要なに応じて行う。	②中間考査時に研修を実施した。			

エ 国際交流課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 国際交流に積極的に取り組み、外国のことに興味・関心を持った生徒を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	普通科も国際交流の場があるのがよい。 生徒の意見発表会について時間をしっかり確保してほしい。
	①異文化学習の機会を年間2回以上提供する。	2回（6月29日、3月20日）実施できた。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ディベート学習を通して理論的思考の訓練ができただけでなく、批判的に物事を捉える思考方法も練習することができた。 オーストラリアの生徒とは学校生活や進路について意見交換を行うことを通して、異文化の人と価値観を共有したり、英語を学ぶことのインセンティブを高めることができた。	
	①外部から外国人の講師等を招いて、異文化講演会を実施する。	①四国大学よりマークフェネリー先生をお招きし、国際英語科2年生対象にディベート学習を実施。またオーストラリアの高校生達とICT機器を用いた交流を実施。国際英語科1年生は、本校ALTからオーストラリアの文化について学ぶ機会を持った。		
	②海外訪問団を積極的に受け入れ、科を問わず多くの生徒との交流の機会を計画する。	②今年度は、本校生徒との交流を希望した海外訪問団の規模が受入可能な規模を大幅に上回ったため、受け入れすることができなかった。		
2 異文化の中で生活できる機会を提供する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	生徒や保護者にとって、より安価で安心して安全に海外研修ができる状況を検討していきたい。
	①海外研修（修学旅行・派遣を含む）の参加者を80名以上にする。	100%（103名が参加した）	(評定) A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度から、生徒がより安全に移動できるように添乗員をつけることとした。また、昨今の世界情勢の不安定化を考慮して、テロや戦争時に対応できる保険への加入も導入した。	
	①(7) 海外研修のパンフレットや説明会など情報提供を充実させる。	①できた		
	②(イ) 派遣プログラムなどの情報収集に努める。	②できた		
	③(ウ) 事前指導を3回以上実施し、安全実施のための準備を徹底する。	③できた		
3 海外姉妹校との交流を活発に行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	次年度は、4月にニュージーランドの姉妹校が来校するので、その際にICT機器を用いてどのような交流ができるかを検討したい。
	①ニュージーランド・タイ・ドイツ姉妹校とのEメールなどを用いたグループ交流を1回以上行う。	グループ交流は実施できなかったが、個人レベルでの交流は複数回行うことができた。	(評定) B	

			(所見) 次年度4月に受け入れするニュージーランドの生徒とのEメール交流を2～3月に実施したが、現地姉妹高校と利用可能なテレビ会議ネットワークがなかったため、グループ交流は実現しなかった。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①国際英語科・普通科の希望生徒を募り、Eメール・スカイプ等を用いて、現地とのグループ交流を実施する。	①姉妹校との個別交流はできたものの、グループ交流には至らなかった。		

オ 特別活動課

*総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 学校行事（学校祭・球技大会等）の活性化を通して、生徒の自主的・自律的な行動を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>学校行事を企画する生徒にPDCAサイクルを体験させてほしい。</p> <p>・学校祭の日程 天候が不安定な時期であり、食品バザーや体育祭などもあり、日程に苦慮するが、進路指導などの観点から大きく変更することは困難であると考えられる。準備期間が不足しないよう、年度ごとにベストな日程を考えたい。</p> <p>・体育祭種目の精選 危険な競技種目も指摘されるので、安全に配慮した競技の精選、また悪天候による競技の短縮も考えられることから、競技順序や出場人数、男女比も検討すべきである。</p> <p>・予選会 予選会の日程、内容も検討を要する時期にきている。従来の伝統を生かしながら、より良い方向性を模索していきたい。</p>
	①学校評価アンケートにおいて、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合を90%以上にする。	①学校評価アンケートでは、86.9%となっており目標を達成できていないが、おおむね良好な状態であると考えられる。	(評定) B	
	②学校評価アンケートにおいて、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。	②学校評価アンケートでは、70.6%となっており目標を達成できていない。昨年度は82.1%であったので肯定的意見の割合が低下した原因を探りたい。	(所見) 達成度は数値目標をクリアしており、学校行事においても、生徒が自主的、積極的に取り組むことができている。アンケートの結果などから、次年度の課題などについても発見できている。しかし、数値から判断すると、肯定的意見の割合が低下したので、各学校行事の活性化についてさらなる工夫と検討を要する。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
2 クラスや部活動のみならず、それらを超えた幅広い人間関係の構築を図るとい仲作りを意識する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>さらに、良好な人間関係構築のために、学校行事等でホームルームや生徒会などで、自主的な活動を推進していくことで、生徒同士の人間関係を深めるようことを検討している。</p>
	①学校評価アンケートにおいて「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合を85%以上にする。	①学校評価アンケートでは、87.9%となっており目標を達成できている。おおむね良好な状態であると考えられる。	(評定) A	
	②教員及び保護者において、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合を85%以上にする。	②学校評価アンケートでは、教員88.4%、保護者86.3%となっており目標を達成できている。おおむね良好な状態であると考えられる。	(所見) 「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が数値目標を大きくクリアしており、学校内における生徒の人間関係は、概ね良好な状態であると考えられる。また、保護者と教職員で多少差があるが、こちらも数値目標をクリアしているので、学年・クラスの枠を超えて、おおむね良好な状態であると考えられる。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①②計画準備段階においては、生徒会と各ホームルームとの連携を図るのみならず、各ホームルーム内でのクラスメイトの関係や部活動内の学年を超えた関係を密にさせる。	①②生徒会と各ホームルームとの連携を図るのみならず、各ホームルーム内でのクラスメイトの関係や部活動内の学年を超えた関係を密にさせることを目標に取り組んだが、それが達成できているのかを判断するのが難しい。		

3 部活動の活性化を通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせ、何事にも前向きに取り組む能力や態度の育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した生徒、保護者と、教職員のあいだに差があり、意識の違いがみられる。さらに部活動の意義について伝える機会を工夫したい 部活動参加率は高いが、継続率について検討する必要がある。特に1年生は原則全員入部になっているので、登録したものの積極的に活動できていない者もいる可能性がある。
	①部活動参加率を全体生徒の85%以上にする。	①全体生徒の部活動参加率は100%（ただし重複入部を含む）となっており、十分に目標は達成できている。	（評定） B	
	②学校評価において、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。また、保護者や教員の回答においても、80%以上にする。	②学校評価アンケートでは、生徒76.1%保護者81.1%教職員96.1%となっており、生徒のみ目標を達成できていない。また、教員と生徒でかなりのギャップがある。	（所見） 「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した割合は教員や保護者においては目標を達成できているが、生徒のみ目標を達成できていない。また教員と生徒の間にかかなりの意識のギャップがある。 部活動参加率については、1年生が原則全員入部となっているので、高い割合になっている（重複入部を含む）。	
活動計画	活動計画の実施状況			
①新入生対象の部活動紹介を充実させる。	①1学年の原則全員入部が効果を発揮していると考えられるが、部活動参加率をあげればそれでいいのか、諸問題が発生しており、検討が必要な時期にきている。			
②部活動の活動時間を遵守し、各部活動で自主的で積極的な活動が実現できるよう工夫する。				
4 国際的視野を広げ、社会に貢献する姿勢を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	予算の面で課題はあるが、来年度も地球市民講座を開講し、充実したものになるよう内容を精選し、準備したい。 生徒会や部活動も、清掃活動に積極的に取り組んだが、さらに、日常的に校内美化に努められるよう、意識改革したい。 各種ボランティア活動にも、生徒会などを中心に積極的に参加できるようにしたい。
	①地球市民講座において事後アンケートを行い「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。	①事後アンケートが実施主体である、SYDの様式であったため、項目が評価指標に合うものがないが、事後アンケートや生徒の実際の感想を聞いてみたところ、世界の貧困に苦しむ子どもたちの実態について、深く理解でき自分に何ができるのか考えさせられたという生徒が多かった。	（評定） A	
	②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回計画する。	②生徒会が中心となり各部活動も参加し3回以上実施することができたので十分に目標を達成できている。	（所見） 本年度は、地球市民講座を実施することができたし、生徒の反応などから、かなり充実した講演会になったと考えられる。 生徒会や学校行事として、また部活動独自でも、学校内外での清掃活動に、積極的に参加することができた。 生徒会、JRCなど、各種ボランティアや募金活動などにも、積極的に取り組むことができた。	
活動計画	活動計画の実施状況			
①生徒の国際的視野がひろがるような講演を計画する。	①本年度は、SYDの講演会である「貧困に苦しむ子どもたち」を実施することができた。			
②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を取り入れるよう計画する。	②各種募金活動、ボランティア活動、地域清掃作業、挨拶運動など、生徒会が中心となり各部活動も参加し3回以上は実施することができた。			

カ 図書課

* 総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 図書館の利用を通して、読書習慣の育成を図り、主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけ	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	授業での活用をきっかけに、自主に図書館に行き、主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせることに結びつける工夫をしていく必要を感じた。
	①1人当たりの年間利用回数を昨年度より0.5回以上増やす。	①入館者はH28年度は6,528人、H29年度7,727人である。1人当たりの年間利用回	（評定） B	

させる。	②授業での利用を昨年度より5回以上増やす。 ③1人当たりの貸出冊数を0.5冊以上増やす。	数はH28年度に比べて、約1.3回増加した。 ②授業での利用は、H28年度は45回で、H29年度は65回と20回増加した。 ②1人当たりの貸出冊数は、H28年度は3.0冊、H29年度は3.8冊と0.8冊増えた。	(所見) 情報メディア発達してきた中において、個人貸出が減少傾向となっているここ数年、授業の中で図書館の本を活用したり、紹介していくことをとおしてきっかけを作り、それを個人貸出にもつなげていくことを先生方に提案し、お願いしてきた。その結果、図書館利用回数や集団貸出の本が昨年度より増加した。		来年度は、ホームページに掲載する資料の選定や担当係のあり方等を工夫して、情報提供をしていきたい。 第3年年においては、本年度はクラス読書会をがなかったが、来年度は年に1回は実施したい。 来年度は、より積極的な参加者と、紹介する本も、詩集・随筆・評論等多彩なジャンルのものを期待したい。 今後も御協力をお願いして、活用できる蔵書を増やし、授業への利用を図り、自主的な生徒の個人貸出へのきっかけにもつなげていきたい。 各教科担任が授業に持ち出して紹介する、辞書指導や調べ学習に国語科を中心に辞書や本・雑誌等の資料を利用するなどを推進したい。
	活動計画	活動計画の実施状況	教科では国語科が中心的な本の活用をしていくことになるが、先生方によって差があるようである。 ビブリオバトルは、本を紹介し合うことで、読む本のジャンルを広げたり、本を仲立ちにしてコミュニケーションする場であった。 協力してくださる先生に限られていた。 総貸出冊数が、昨年度より710冊増えた。授業への団体貸出が昨年度より増加しているためでもある。生徒一人一人の自主的な読書活動の充実に向けた取り組みは、さらに工夫して進めていかなくてはならないと思われる。		
	①(7)進路選択に必要な図書や読んでほしい本を充実させ、「図書館だより」や壁面掲示で広報する。また、分類別の展示やテーマ別の特集など、わかりやすい館内・館外展示を工夫する。 ①(イ)図書館を使った授業など、国語科をはじめ各教科と連携して、読書活動や調べ学習を推進する。 ①(ウ)読書会等の図書館の企画を広報し、多くの参加者を募る。 ②各教科の先生方に、授業に活用したい本や生徒に読ませたい本の購入希望図書カードを配布して利用の推進を図る。 ③図書館の利用状況、貸出状況を適宜知らせる。	①(7)進路選択に必要な図書や読んでほしい本を充実させるために、図書委員会発行の「図書館だより」を2か月に1回、「新着図書案内」を毎月発行して読書啓発をした。また、小論文や入試問題に出題された本をリストにして各クラスや館内・館外で掲示・展示し周知した。 ①(イ)HR活動のクラス読書会に集団テキストを借りてもらったり、授業の中での調べ学習で本・辞書・便覧・雑誌・新聞等の資料の活用が増えた。 ①(ウ)読書会・ビブリオバトル等の館内行事は図書委員だけでない参加者を広く募るために、クラスや掲示版等で広報した。館内・館外展示もその都度案内をして広報した。特に、ビブリオバトルは関心を寄せてくれる生徒もいたため、図書委員以外の参加者も多く48名で実施した。また、「春をよぶ読書週間」にも前・後期の図書委員と先生方のおすすめ本を紹介文・イラスト等で書き、館外・館内に展示した。 ②「購入希望図書カード」を各学期に1回は先生方に配付した。 ③図書館の利用状況や貸出状況を学年別・クラス別のベスト3を知らせる形で、「図書だより」で、生徒達・先生方に広く知らせた。また、年3日回職員会議でその状況を知らせ貸出推進への協力をお願いした。			

キ 環境・防災課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	よく整備されていると感じた。 ①教員にも啓発し、絶え間のない声かけを行い、こまめに節電・節水を行う行動が取れるように心がける。 ②参加人数は毎年増えており、校内行事としては完全に定着している。北高ロード商店街の方々と連携を深め、内容を充実させていく。 ③質問項目そのものを、評価指標と同じ文言にするか、より具体的な質問内容にして、評価検討していく必要がある。
	①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比3%使用量を節減する。 ②年間3回以上「ゴミ0の日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに環境委員以外の個人参加者を毎回20人以上とする。 ③環境美化に努め、清掃が行き届いているという実感を持つ生徒の割合を80%以上にする。	①電気量使用割合が6%、水道量使用割合が3%増加した。 ②部活動・生徒会などの参加で、6月は65人、11月は52人の参加者があった。 ③保護者の学校評価では83%。生徒の「美化に協力できている」割合は80%、「環境問題を意識している」は60%であった。	(評定) B (所見) ①今年は猛暑でクーラー使用時期が早まったり、生徒が遅くまで残って勉強したので使用量が増えたか？原因が多岐にわたると思われ、それが少しづつ重なる。	

	活動計画	活動計画の実施状況	②毎回参加者は安定している。部活動などに所属しておらず、友人関係で個人参加してくれる生徒は15人程度である。 ③意識している割合が60%にもかかわらず、美化に協力できている割合が80%ということは、実際の行動はあまりできていない、ととれるかもしれない。		
	①掲示物や環境委員からの声かけ等により、トイレでの日中の節電や移動教室時の消灯、節水の徹底を呼びかける。 ②校内及び学校周辺、勝瑞駅等の清掃ボランティア活動を、環境委員や部活動生徒が中心となって積極的に行う。 ③チェックシートを利用して、ゴミ捨て時に分別を正確にするよう指導し、資源の再利用を呼びかける。	①定期的な呼びかけを行ったが、掲示物の配布が中心で、環境委員を有効に活動させるという点に関しては不十分だった。 ②多くの有志が参加してくれた。今年は、北高ロード商店街の花壇作りのイベントにも参加できた。 ③シートは作ったが、十分活用できなかった。	②毎回の結果だと思ふ。		
2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らを守るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる、人材を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	防災救急などの連絡連携の組織図が明確にされているとよい。 ①1学期に行事が偏っているため、2学期・3学期も意識の向上につながる行事を考える。 ③あわっ子防災士を有効に活用して、生徒の自発的な防災意識を高める。	
	①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ年1回早期に実施する。 ②1年生を対象とした、水難事故防止のための講習会等を、夏季休業前に1回実施する。 ③災害発生時の緊急対応について理解している生徒を100%にする。	①地震・津波訓練は4月1週目、地震・火災対応避難訓練は5月に実施した。 ②7月に実施できた。 ③理解している生徒は100%だが、具体的な細かい行動となると、十分とはいえない。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①②③学校行事やHR活動の時間を利用し、専門家の講演やDVD等の防災教材により、様々な危険や災害に、自主的に対応できるよう防災意識の向上を図る。	・HR活動の中で実施しているのは、津波避難訓練だけで、他は特別時間割の行事で実施している。各回の行事の中では、防災意識の向上を図るプログラムが行えている。	①年度当初に行事としてすっかり定着した。 ②着衣のままの水難防止など、実際起こりうる状況に合わせた講演なので、実践に役立つ内容である。 ③おおむね取り組んでいる。		

ク 人権教育課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策	
1 ホームルーム活動（人権）の他、委員活動や日々の活動など様々な機会をとらえて生徒の人権意識の高揚を図り、啓発活動に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	紙面スタイルをどのように変更する案があるのか提示してほしい。 「人権委員会だより」を読んでいる生徒が全体の半分にとどまっているので、全く活用されていないことはないが、生徒の人権意識をさらに向上させるために、読んでいる生徒の割合を増やす取り組みが必要である。人権委員に朗読させたり、内容、紙面のスタイルについて再考するなど、来年度検討したい。 ホームルーム活動で扱う内容が多く、表面的な理解にとどまっているかもしれない。終業のチャイムなどにとられることなく、生徒の人権意識高揚をはかれるようなホームルーム活動（人権）を考えていきたい。	
	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を80%以上にする。 ②(ア)「人権委員会だより」を年6回発行する。 ②(イ)「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合を60%以上にする。	①「高まった」と答えた生徒の割合は75.2%で、昨年度より8ポイント余り減少した。 ②(ア)年6回の発行した。 ②(イ)人権委員会だよりを読んでいる生徒の割合47%であった。	(評定) C		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせる。	①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせた。	①について、2学期のHR活動が1、2年はなく、映画会だけだったことも影響したかと思われる。ホームルーム活動（人権）では自分の意見・他人の意見を交換することができていた。 ②人権委員会だよりを読んでいる生徒の割合が昨年より減少した。背景に若い世代の活字離れの影響も考えられる。		

	②「人権委員会だより」を生徒主体で作成し、ホームルーム活動の展開にも利用する機会をつくり、家庭にも配布するなど啓発活動に積極的に活用する。	②担当教員と内容についてやりとりしながら「人権委員会だより」を生徒主体で作成した。			
2 人権教育の充実を図り、全職員でいじめ防止に向けて取り組む。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「人間への信頼」を生徒の心の中に醸成できるよう、委員会だよりや生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりをめざす。生徒一人ひとり尊重し、また面談等を実施し、いじめ防止に取り組む。	
	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。	(評定) B		
	②先生はいじめの防止に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	②69.3%であった。	(所見)②について、去年より低下している。 目に見える、いじめ防止の動きがはっきりないことが影響しているかもしれない。 ・生徒の日常つかっている言葉を意識して把握する必要がある。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくる。	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるようにした。			
	②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導する。	②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導した。			
3 職員の人権研修の機会を多く持ち、人権意識の高揚を図り、啓発に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	具体的にどのような研修があるか提示してほしい。 教員の実践活動に役立つような研修の充実を図りたい。人権教育の最近の動向を知るためにも、校外の研修に参加できるよう取り組みたい。また、校内で少人数で密度の濃い研修ができるといいのではないだろうか。	
	①職員の人権研修の機会を持って、人権意識の高揚を図る。校外の人権研修会への参加を各職員年1回以上持つ。または、外部講師を招いた校内研修会に各教員は年1回以上参加する。	① 年1回以上職員研修に参加した割合は82%であった。	(評定) B		
	②職員による人権教育評価において、「普遍的視点からのアプローチ」と「個人人権課題」についてホームルーム活動や教科指導の中で、「実践できた」「だいたい実践できた」と回答した割合を90%以上にする。	② 「実践できた」と回答した教員は94.2%であった。	(所見) ①について、去年に比べ職員研修に参加した割合が2%少なくなったが、概ね参加できていた。 ②について、生徒と職員との間に若干の意識の乖離が見られるのではないか。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①人権教育課は、研修会や講演会を行事計画にできるだけ掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をする。	①人権教育課は、研修会や講演会を行事計画に掲載誌し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をした。			
	②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって実りあるホームルーム活動にする。また、教科における授業についても人権教育を念頭において実施する。	②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとり、実りあるホームルーム活動にした。教科における授業についても人権教育を念頭において実施した。			

ケ 保健・教育相談課

* 総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 自分の心やからだの健康に関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	PTAとの連携を活動のテーマとしてほしい。 将来にわたって健康な生活を送ることができるようになるためには、自己管理のできる生徒の育成が重要である。本年度3年目になる「生活改善プロジェクト」では7割以上の生徒が達
	①学校評価アンケートにおける「あなたは、自分の心やからだの健康に関心を持ち、健康な生	①81.1%の生徒が「あてはまる」と回答した。	(評定) B	

	<p>活を送るよう心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合が<u>80%以上</u>にする。</p> <p>②学校評価アンケートにおける「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について、「あてはまる」と回答した生徒及び保護者の割合が<u>80%以上</u>にする。</p>	<p>②「学校では安全や健康管理に十分注意している」について、生徒82.2%、保護者87.6%が「あてはまる」と回答した。「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」については86.1%の保護者が「あてはまる」と回答した。</p>	<p>(所見) 概ね目標を達成することができた。生徒保健委員が主体となって実施する保健HR活動は、本年度も好評であった。次年度も実施を計画したいと考えている。更なる保健意識向上のために、生徒の興味関心の高いテーマについても取り上げていきたい。</p> <p>生徒課の交通安全教育や環境・防災課の防災教育、保健体育科の保健学習とともに、保健管理や保健教育に取り組み、これからも生徒が心身ともに充実した生活を送ることができるよう支援していきたい。</p>		<p>成できたと感じており、取組内容も具体的にになってきている。次年度はさらに家庭にも協力を働きかけて、継続的に取り組めるよう進めていきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①生徒保健委員会において生徒の自主的な活動を推進し、学校全体の生徒の保健意識の向上や啓発を図るために、次の活動を行う。 (ア) 石けんの点検・補充 (イ) 文化祭で健康意識の啓発展示 (ウ) 保健ホームルーム活動 (エ) 保健だよりのポイント説明・配布</p> <p>②生徒の心身の健康管理及び保健指導の充実を図るために、次の活動を行う。 (ア) 保健だよりを年間10回以上発行する。 (イ) 応急処置を適切に行うとともに、担任や特活課、保健体育科等との連携をさらに密に図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①(ア)定期的に実施できている。 ①(イ)本年度は生活習慣改善について展示した。 ①(ウ)保健委員の進行によるホームルーム活動を11月に実施できた。 ①(エ)ポイントを説明して配布するよう指導できた。</p> <p>②(ア)年間10回以上のペースで発行できている。 (イ)生徒の病気やけがの対応は常に連携を取ることができた。</p>			
<p>2 生徒がはつらつとして充実した学校生活を送れるよう支援する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①カウンセリングデーの相談室待機を<u>100%</u>にする。</p> <p>②学期に2回以上は、不登校傾向にある生徒や気になる生徒の把握をして、カウンセリングの実施等の適切な支援を図る。</p> <p>③不応の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早期に校内の関係者との連携を学期に2回以上図る。</p> <p>④人間関係づくりワークショップの実施後のアンケートで「有意義であった」と答えた割合を<u>80%以上</u>にする。</p> <p>⑤特別支援教育の取り組みを保護者に年1回以上説明する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①カウンセリングデーの相談室待機は100%達成できた。</p> <p>③適宜連絡を取り、適切に対応した。</p> <p>③適宜連絡を取り、適切に対応した。</p> <p>④94%の生徒が「有意義であった」と答えた。</p> <p>⑤PTA総会で、本校の特別支援教育の取り組みについて保護者に説明した。3月の合格者招集の時にも実施する予定である。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 概ね目標を達成することができた。 カウンセリングデーの相談室待機はできているが、一部の課員に偏っており、今後検討が必要だと思う。 カウンセラーを必要とする生徒や保護者は増えており、継続的な支援が必要なケースもある。今後もカウンセラー派遣事業の活用は高まると思われる。</p>		<p>カウンセリングデーを継続的に活用している生徒もいることから、今後の運営のあり方について検討が必要である。また、教育相談室の環境整備も必要である。 カウンセラー派遣事業の活用は今後も高まると思われる。校内の連携はもとより、校外の関係機関とも連携を取り、生徒の支援に繋げるよう進めていきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①カウンセリングデーの広報をする。</p> <p>②(ア)課内会議やケース会議を随時開催する。 (イ)必要に応じてスクールカウンセラー派遣の要請をしたり、関係機関との連携を図る。</p> <p>③担任・学年団や人権教育課からの情報収集に</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①保健だよりにカウンセリングデーの広報をした。1年生のオリエンテーション時にガイダンスをした。</p> <p>②保健だよりに毎号カウンセリングデーの広報や心の健康のためのコーナーを作り、教育相談室周辺図も掲載して、気軽な入室を促進した。</p> <p>③課内会議、学年会は適宜行われた。カウンセ</p>			

	<p>努め、共通理解を図り、生徒の支援をする。</p> <p>④人権教育課と協力して有意義な実施に努める。</p>	<p>ラー派遣事業の活用も適宜行われた。</p> <p>④1年生対象の人間関係づくりワークショップを人権教育課と協力して実施した。</p>			
<p>3 食堂やパン販売の利用について正確な情報を伝え、マナーを守った気持ちよい利用の推進を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①食堂の営業日・営業時間の連絡を100%正確に行う。</p> <p>②学期に1回以上は、生徒の利用状況の把握に努める。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①・教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>②今年度はアンケートは実施していない。厚生委員に意見を求めて参考とした。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。昨年度実施したアンケートを生かして、改善に努めた。</p>		<p>生徒の利用状況を把握するために、次年度は厚生委員にモニターになってもらって改善点を検討する等したい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①営業日やメニューの教室掲示を適切に行う。</p> <p>②生徒の利用状況を把握するために、必要に応じてアンケートを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>②昨年度実施したアンケートを生かして改善に努めた。</p>			
<p>4 公共物をマナーを守って利用する公共心の育成に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①セミナーハウスの使用について、正しく利用できた割合を90%以上にする。</p> <p>②厚生委員会主催の大掃除を年2回は実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①90%以上は正しい利用ができている。</p> <p>②2学期末に大掃除を行った。2月にも実施する予定である。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>1・2年生の厚生委員と課員の先生方で大掃除を行った。適正に使用できているが、利用者が気持ちよく使えるよう環境の整備が必要である。</p>		<p>利用する部活動とも連携し、さらに適正に使用できるよう注意したい。そのため、利用マニュアルを作成中である。</p> <p>清潔な環境を維持するため、寝具のクリーニングを計画中である。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①(ア) 定期的に点検を行う。</p> <p>①(イ) 貼り紙等を掲示することで意識の向上を図る。</p> <p>①(ウ) チェックリストを作り点検時に活用する。</p> <p>②1学期末・2学期末に大掃除を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①(ア) 適宜点検を行った。</p> <p>(イ) 「セミナー室使用心得」を掲示し、マナーの向上に努めた。</p> <p>(ウ) 利用マニュアルを作成中である。</p> <p>②2学期末に1・2年生の厚生委員と課員の先生方で大掃除を行った。3学期にも実施予定である。</p>			
<p>5 福祉的な募金活動に協力する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①福祉的な募金活動に年2回以上協力する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「複十字シール運動」と「手足の不自由な子どもを育てる運動(愛と友情の絵はがき)」に協力した。</p> <p>3学期には、書き損じハガキ等の寄付の協力をする予定である。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>募金活動の意義を広報し、協力を呼びかけた。自主的に協力してくれる生徒もあり、福祉に対して関心を持ってもらえたのではないかとと思う。</p>		<p>今年度は厚生委員の活動の場が少なかったように思う。次年度は計画的に活動できるようにしたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①厚生委員会の各クラスの生徒厚生委員の活動として計画する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①募金活動の意義を広報し、協力を呼びかけた。</p>			

6 奨学金の事務処理を正確に行い、奨学金を申請する生徒の進路実現につなげる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		次年度も適正かつ公正に実施できるように努め、生徒の進路実現に繋がるようにしたい。
	①奨学金の事務処理を正確に行い、申請する生徒の100%が正しく申込み、進路実現につなげるようにする。	①ほぼ100%適正に公正に申請できた。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 奨学金の申請書類をクラス単位で分担し、複数の課員でチェックする態勢をとったので、ある程度は負担が軽減された。情報の取り扱いも慎重にできた。		
	①(7) 情報提供及び連絡を正確に行う。 (イ) 奨学金の校内締切を守らせる。 (ウ) 個人情報の含まれる書類の取り扱いには十分注意を払う。 (エ) 申請書類を複数態勢でチェックする。	①(7) 情報提供及び連絡を正確に行った。 ①(イ) 校内締め切りを守らせることができた。 ①(ウ) 鍵のかかる専用のロッカーに保管する、封筒に入れる等の配慮をして、書類の取り扱いには十分な注意を払った。 ①(エ) クラス単位で分担し、複数の課員でチェックする態勢をとった。			

コ 進路課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 主体的な学習習慣と確かな学力の育成を図る。 (1) 家庭学習の習慣化を図る。 (2) 確かな学力を身につけさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	従来通り家庭学習の重要性を指導してほしい。 ①②③家庭での学習習慣の確立 ・1年生第1学期の指導が大きく影響すると思われるので、学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し伝える。 ・家庭での学習成果を計れるようなテストを作成する ・部活動終了後の下校時間を徹底する。 ・予習をして授業に臨む姿勢を養う。 ・教科指導研究会を設ける。 ・生活学習時間調査を活用し、面談を行う。 ④補習出席率の向上 ・学年や担任と連携して早めの指導を行う。欠席が多い生徒は、放課後学習を実施する。 ・遅刻指導と同様に、回数に応じて保護者に来校していただき面談を行う。 ⑤模試で通用する学力の養成 ・定期考査、実力テストの問題を模試や入試につながるよう改善する。 ・模試を分析する学年教科会を実施する。 ・2年生は、理科、地歴公民の補習を2学期から実施するなど補習を見直す。
	①家庭学習（塾等での学習を含む）1時間以上の生徒を75%以上にする。また、各学年で平均家庭学習時間（塾等での学習を含む）「(学年+1)時間以上の生徒を50%以上にする。 ②「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身につけている生徒の割合を70%以上にする。 ③「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 ④1、2年生の学年単位で、補習の出席率を95%以上にする。 ⑤校外模試における各科目の平均点について、校内平均点が全国平均点以上となるようにする。	①9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生90.9% (90.3%)、2年生は87.7% (88.4%)、2時間以上は、1年生64.4% (71.3%)、3時間以上は2年生41.3% (60.7%)であった。2年生平日の学年目標以外は達成できている。(括弧内は休日) ②1年生68%、2年生67.8%で、達成できていない。 ③「よく理解できている」「ある程度理解できている」を合わせると、74.26%で、達成できていない。 ④1、2学期の補習の出席率は1年生96.7%、2年生94.0%で、2年生が達成できていない。 ⑤11月の進研模試では、2年生国語-0.9点、数学+0.9点、英語-1.2点で、2年生国語-2点、数学+4.5点、英語+1点、地歴公民、理科は日本史B以外すべて全国平均を下回った。	(評定) C	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①塾等での学習を含めると、概ね目標時間は達成できている。しかし、自分で主体的に取り組む家庭での学習の重要性を認識させ、時間を確保させる必要がある。 ②部活動終了後、早く帰宅するなど時間を有効に使い、遅くとも9時までに学習を開始する習慣を定着させる必要がある。 ③70.8%の生徒がICTを使った授業が理解を高めていると回答している。指導方法の工夫は当然必要であるが、生徒に予習、復習を習慣づけることも重要である。 ④一部の特定の生徒の遅刻・欠席が多い。 保護者とも連携して粘り強く指導していかなければならない。 ⑤数学、日本史以外で全国平均を下回っている。授業での理解度向上とバランスのとれた家庭学習を推進しなければならない。	
	①進路説明会等で、家庭学習の現状とその効果を保護者に十分理解してもらい、協力を要請する。 ②生活学習記録表や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。家庭学習が1時間未満の生徒には、保護者と連携しながらホームルーム担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図る。 ③「予習」「授業」「復習」の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解、定着を図る。 ④補習に参加することが必要であることを繰り返し	①PTA総会と各学年PTAで、調査結果を提示説明し、協力を要請した。 ②面談週間や三者面談、四者面談を通して、家庭学習の少ない生徒には指導し、改善に努めた。 ③日々題、課題、確認テストは、各教科が主体となり実施し、学習習慣の定着を図った。 ④学年集会や全校集会で、補習の意義や進路意		

	<p>返し指導する。遅刻・欠席が目立つ生徒には、ホームルーム担任、学年主任、進路課が連携し、段階的に指導を行う。</p> <p>⑤校外模試実施前に過去の問題を生徒に配布し、重要なポイントを指導する。また、終了後は訂正ノート提出させるなど、間違えた箇所の復習をさせる。</p>	<p>識の高揚について指導した。補習の欠席・遅刻が目立つ生徒には、担任や学年主任と連携して指導にあたった。</p> <p>⑤模試の過去問題配付や訂正ノートについては、教科担任を中心に実施した。</p>			
2 キャリア教育を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	近い将来と遠い将来について自分の生き方を考える生徒を育ててほしい。	<p>①②進路意識の高揚と進路目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスなどは申込み制限を設けている大学も多いので、早めに情報提供し参加を促す。 ・キャリア教育を充実させ、校外の研究会や講座などへの積極的な参加を促す。 ・高い目標を持たせ、学力を高める、あきらめさせない指導をする。 ・大学入試センター試験の受験は当たり前であるという意識を持つような指導をする。 ・進路HR活動を充実させ、進路実現のためにやっていかなければならないことを浸透させる。 ・活動の記録を蓄積する方法を確立する。
	<p>①1, 2年次にオープンキャンパスやインターンシップなどの体験活動に1回以上参加した生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>②2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>①オープンキャンパス等には、88.7%の生徒が1回以上参加した。</p> <p>②1月に実施した進路調査では、全員が進路目標を持っており、目標とする進路が決まっている。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p>		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①あらゆる機会を通じて、「将来の自分の生き方」を考えさせるとともに、体験的活動の広報に努め2年生終了までには必ず1回は参加させる。各課と連携し自主的に職業研究、学問研究、大学・学部・学科研究に取り組ませる。</p> <p>②生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また、「若楠」や「進路ニュース」を活用し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>①「総合的な学習の時間」と連動させて、キャリア教育を推進している。1年生では大学・学部・学科研究に取り組んでいる。</p> <p>②「若楠」、「進路ニュース」および学年PTAの資料などで、入試情報や合格状況、先輩の合格体験記などを掲載し、進路意識の高揚に努めた。</p>			
3 生徒の個性や創造力を伸長させて、進路希望を実現させる	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①就職を強く希望する者に対しては、2年次後半から進路決定や試験対策に向けた、フォローアップする体制やプログラムが必要と考えられる。
	<p>①就職希望者と定期的に面談を行い、2学期末までには、就職未決定者をゼロにする。</p>	<p>①担任や部活動顧問の先生方の協力を得ることにより、1ヶ月遅れではあるが1月末には全員が就職先を決めることができた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①企業就職希望者と早い時期から面談を重ね、希望の業種や職種を絞り込み、希望する企業から求人を得られるよう、精力的に職場開拓を行う。</p> <p>②公務員希望者には、公務員試験対策の専門家を学校に招き講習会を実施し、社会性の確立を目指す。</p> <p>③就職・公務員模試を年間6回実施し、進路を実現する確かな学力向上を図る。</p>	<p>①生徒のみならず保護者とも面談することにより、早い時期から希望の進路先への職場訪問を行い、企業の人事担当者との人間関係構築に努めた。</p> <p>②5月に公務員対策の専門家の講習会の実施により、採用試験や就職活動に対する意識の高揚をはかった。</p> <p>③就職・公務員模試については、予定通り実施することができ、就職への学力向上につながった。</p>			

			塾に通えない生徒のために、専門家のアドバイスを受ける機会を増やす必要があるように思われる。			
4 地域社会に貢献できる人材の育成に向けキャリア教育を推進し、自主的な行動力を身に付けさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①就職希望生のみならず、就職希望者も含めた就労に関する講演会を実施することにより、就職をイメージさせる機会を積極的に設けることも必要と考えられる。	
	①就職ガイダンスや公務員セミナーなどの体験的活動を通して、主体的に自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が、希望する進路を実現できる。	①就職ガイダンスや公務員セミナーでは、情報伝達や意見交換を通じ、就職に向けた心構えの構築を図った。	(評定) B			(所見)
	活動計画	活動計画の実施状況	①参加する生徒を見ると、受け身な感じが多く、それらの行事が、積極的かつ能動的に活動するという場にはなりきっていない。行事が講演形式にとどまらず、よりアクティブな場としていく工夫が必要ではないか。			
	①望ましい職業観・勤労観の育成に向け、職業別説明会(1年)、公務員セミナー、就職ガイダンス(2年、3年)等の体験活動により、職業理解や働く意義を学ばせる。 ②卒業後就職したい仕事を自らが見つけ、その目標に向け、継続的に努力し、自主的な行動力が身に付くように導く。	①職業理解や就職に向けた意識作りに、大きく役立った。 ②就職決定以前のみならず、進路決定後も生徒と話す機会を確保し、社会人としての心構えの育成に努めた。				

サ 生徒課

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策	
1 生活習慣の確立を図り、健全な生活態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①頭髪服装が大きく乱れている生徒はほとんどいないが、スカート丈を短くしている生徒や登下校時にブレザーを着用していない生徒が少数見られる。月初めの点検時だけでなく、常日頃から清潔感のある着こなしができるように連携協力を図りたい。 ②雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向は解消されていなかった。 ③挨拶運動については非常に好評で来年度以降も継続をしていきたいが、早朝補習や定期テスト等があるため、実施時期と時間を検討しなければならない。	
	①頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を0.5%以内にする。 ②遅刻者の数を昨年度より10%減少させる。 ③教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。	①再点検を実施した生徒は5名(0.05%)であった。 ②2学期末の状況で遅刻数が74(18.5%)増加した。 ③学校安全の日における登校指導や学期に1回の挨拶運動を計画通り実施できた。	(評定) B		(所見)
	活動計画	活動計画の実施状況	①服装頭髪については数値目標を達成することができた。 ②遅刻者数は年々減少傾向にあるが、早朝補習がない日や雨天時において遅刻が増加した。 ③教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元気で自発的に挨拶ができる生徒はまだ少ない。		
	①月初めのクラス単位の服装頭髪点検、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ②遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ③生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。	①学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画通り実施、また廊下等での常時指導により、極端に服装が乱れた生徒は皆無になっている。 ②月に5回以上の遅刻をした生徒はいなかったが雨天時や早朝補習のない日に遅刻が増加した。 ③今年から生活委員を中心に生徒会や部活動有志とともに挨拶運動が実施できた。生徒自身が本校の状況や挨拶の重要性を再認識できた。			
2 交通ルールを遵守させ、安全意識の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	ルールやマナーを遵守使用とする姿勢が向上するよう、指導を徹底して	
	①自転車交通事故を昨年度(11件)より減少	①自転車交通事故が13件増加した。	(評定)		①ここ数年は自転車交通事故が減少傾向にあったので例年と同様の活動計画を立案し実施してきたが、結果として事故が増加してしまった。

	させる。		C	ほしい。	事故状況を見てみると、交差点における前方確認不足や生徒自身の不注意が原因となったケースがほとんどであった。事故状況や生徒の状況を分析し改善策を考えなければならない。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①交通事故の原因については、ほとんどが不注意によるものであった。集会等を通して注意を促したい。また、PTA役員の方や関係機関と合同の交通安全指導は実施できたが、来年度は生徒に係わる登校指導を増やしたい。		
	①(7) 登校指導を月1回以上、徳島北署やPTAとの合同指導を年3回実施する。 ①(4) 交通事故の状況について、職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。 ①(ウ) 交通安全講話を実施する。	①計画通りの合同指導を実施した。 ①職員朝礼や職員会議で事故の発生と事故状況について職員に連絡するとともに、生徒への注意喚起を行った。 ①1年生については2回、それ以外の学年は1回実施した。			
3 携帯電話の安全な使い方を通して、情報モラルの育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し使用しているが、それぞれの使用方法やトラブル等の把握が困難であるため生徒の実態が正確につかめない。指導する側も関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。
	①携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。	①2学期に1回実施した。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①計画していた行事はすべて実施することができた。 ②携帯・スマートフォンが関係した問題行動やトラブルが増加しているが、生徒の実態把握が難しい。		
	①各関係機関と連携し、携帯電話安全教室を行い、情報社会におけるモラルを身につけさせる。 ②「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業においても情報モラル教育を推進する。	①携帯電話安全教室やホームルーム活動におけるモラル教育や学年集会においてスマートフォンにまつわるトラブル防止等について説明・注意を行った。 ②年間計画に基づいて実施できた。			

(2) 学年

ア 1学年

* 総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	総合評価	次年度に残された課題と方策	
1 生徒一人一人の進路目標に応じたコース・科目選択ができるように、目標を明確化させ、自主的・主体的に学ぶ態度を育成する。 (1) 学習習慣の確立を図る。 (2) 基礎学力の定着を図る。 (3) 個々の個性や能力に応じた、望ましい職業観を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①②生徒一人一人の進路目標を明確化するため担任を中心に個人面談やアンケート調査を生かし、進路決定をサポートしていく。また、生活記録を使い、時間管理を習慣付けたり、心のサポートができるようなきめ細かな指導をしたい。(スクールカウンセラーなど) ③見通しを持って自己実現しイメージできるよう(学びの地図)講演会や地球市民講座などを実施しサポートする。	
	①家庭学習ゼロ時間の生徒を5.0%未満とし、平均家庭学習時間を120分以上とする。 ②各学期ごとの欠点保有者を3.0%以内にする。 ③「学校での取り組みが職業観の育成に役立っている」と答えた生徒の割合を80%以上にする。	①9月の生活実態調査では、家庭学習0時間の生徒が平日5.0%(16名)おり、入学当初より微増加した。平日の平均学習時間は塾での学習も含めて131分であった。 ②1学期末欠点保有者は27名(8.4%)、2学期末欠点保有者は27名(8.4%)であった。 ③「あてはまる」と答えた生徒が69.6%であった。	(評定) B		(所見) ①学年団の共通理解のもと、生徒理解に努めた。学習面においては、家庭学習時間が確実に確保できているが、定期テストの欠点の保有者は目標に達していない。(学力(意識)格差が大きい)
	活動計画	活動計画の実施状況			②生活記録の提出や個人面談等を通して生徒一人一人の現状把握ができ、生徒への対応にも迅速かつ組織的に対応できている。
	①学校の授業を中心に据えた、[予習→授業→復習]のサイクルのために日々の生活記録を指導に活用する。	①学年団の連携により、日々題・週末課題や早朝補習を実施し、授業への連動を図っている。			

	<p>②定期考査前には、弱点教科の補講を実施して、苦手な教科の補強をめざす。また、欠点保有者との面談を行い、改善策を検討する。</p> <p>③ホームルーム活動、総合的な学習の時間、学年集会において、適切な進路指導を行う。また、生徒の悩みや不安を把握し助言できるような支援体制を確立する。</p>	<p>②1学期末考査時には、弱点教科補強指導により、中間考査での欠点保持者30名が27名とすることができた。2学期は中間考査で3科目以上の欠点保持者29名がでたため、弱点教科指導に加え担任との面談や4者面談を実施し、6名まで減らすことができた。</p> <p>③あらゆる機会を通して、コース・科目選択の重要性や進路指導に取り組んだ。コース・科目選択では、生徒や保護者向けの進路講演会を実施した。人権教育課や生徒課を中心とした「いじめアンケート」を実施し必要に応じて担任が面談等を行った。</p> <p>④「心のサポート」が必要な生徒には、保健・教育相談課等と連携しスクールカウンセラーがサポート指導にあたった。学年団の連携により、日々題・週末課題や早朝補習を実施し、授業への連動を図っている。</p>	<p>③進路講演会は大雨の中での開催であったが102名(31%)の参加であった。保護者は、どの行事(大学視察研修・大島青松園研修・クリスマスリース作り)にも協力的で参加率が高い。</p>	
<p>2 自ら進んで行動し、社会性や公共心を身に付けた、豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>(1) 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>(2) 優れた人権意識や豊かな国際感覚を持ち、地域のリーダーとして活躍できる実践力を養成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①月5回以上の遅刻者をゼロにするともに、頭髪・服装違反者をゼロにする。</p> <p>②生徒相互のよりよい人間関係を育成するための行事や集会を、各学期に1回は行う。</p> <p>③「人権意識の向上」に関するアンケートにおいて、「あてはまる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①月5回以上遅刻した生徒はいなかった。頭髪・服装検査では、若干名の指導はあったが、その都度改善されている。</p> <p>②1学期は2回(新入生オリエンテーションを含む)実施、2学期は3回実施している。</p> <p>③「あてはまる」と答えた生徒が74.9%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 学年団がよりよい指導体制のもと重点目標達成にむけて組織的・積極的に取り組むことができた。関係各課とも十分に連携を図りながら効果的に指導にあっている。</p> <p>特に携帯電話使用のルールを守る事への規範意識が低く何度も注意を受ける生徒があったり、大きな事故にはならなかったが、28件の交通事故が発生した。</p>	<p>①②基本的な生活習慣に問題がある生徒について(遅刻・、頭髪・服装・、携帯電話の使用違反など)規範意識の向上のためには、個人面談と家庭の協力が必要不可欠なので両輪で取り組み保護者との連携を図る。</p> <p>③「自ら考えて行動できる生徒」を育てるため、キャリア教育の充実を図る。学年団として体験学習、ボランティア活動、インターシップ、講演会、オープンキャンパスなどできるだけ「校外での学び」を増やすようサポートする。また、その体験や経験を総合学習の時間などを利用し発表する機会を作り、生徒同士が刺激しあえる場を作る。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①全ての教員が生徒の生活指導に関わり、指導・支援する。また、多遅刻者、多欠席者について保護者にも協力を求める。頭髪・服装検査で違反が目立つ生徒については、担任・学年主任・生徒課長・学年団で情報を共有し、指導する。</p> <p>②人間関係づくりワークショップ(アサーション・トレーニング)を実施する。また学校行事や学年集会等において、人間関係を大切にしたい行動がとれるよう、時節に応じた指導を行う。</p> <p>③人権問題学習を通して、人権意識の高揚と人権尊重の態度を育成する。また全教員があらゆる機会を通じて、人権感覚・国際感覚の育成に向けて生徒を支援する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学年団で共通理解のもと指導している。保護者との連携も密にして、生徒の生活の向上がなされるよう取り組んでいる。落ち着いた学年ではあるが、入学当初からみると高校生活の慣れから不注意なところもみられる。</p> <p>②人間関係づくりワークショップを実施し、アサーティブな言動について学んだ。また、学年集会を通して、必要な指導を行っている。</p>		

イ 2学年

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	次年度に残された課題と方策
1 生徒の個性や創造性を考慮し、進路目標を明確化させるとともに、自信を持って	評価指標	評価指標による達成度	総合評価
			「学校生活は充実しており、目標を持って授業や行事に主体的に取り組んでいる。」とアンケートに

<p>主体的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>(1) 学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 基礎学力の定着を図る。</p> <p>(3) 自己肯定感に裏打ちされた進路目標の確立を図る。</p>	<p>①家庭学習0時間の生徒を5.0%未満にし、平均家庭学習時間を150分以上とする。</p> <p>②各学期ごとの欠点保有者を全生徒の3.0%以内にする。</p> <p>③「生徒の適性や希望を生かした進路指導を行っている」と答えた生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>①4月と9月の生活実態調査では、家庭学習0時間の生徒が平日で8%から13%と増加している。また、学習時間は平均148分から107分と減少目立った。目標の達成には、不十分である。</p> <p>②1学期4%, 2学期11% 目標達成しなかった。</p> <p>③「あてはまる」と答えた生徒72.3%である。</p>	<p>(評定)</p> <p>C</p>	<p>答えた生徒は83.1%であった。しかしながら、進路実現に向けての学習習慣確立については、不十分であった。進路目標を明確化し、主体的に学習計画を立て習慣化する力をつけることが必要である。</p> <p>進路目標を明確化し、望ましい学習計画を身につけさせるためには、個性や創造性といった面においても生徒理解が重要である。正・副担任・教科担任や特別活動に関わる担当等学校生活において一人の生徒に関わる教員の連携が重要になる。連携を密にし、情報を共有する工夫も必要である。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見)</p> <p>学年団の共通理解ときめ細かな指導により、目標値に近づくことができた。9月の生活実態調査を鑑み2学期は、学年団が一丸となって、家庭での学習時間の改善に向けて生活記録や個人面談、そして教科担任との連携を密にしながら取り組んできた。個々への対応により学習習慣が付くよう根気強く指導していきたい。</p> <p>カウンセリングや悩みを抱える生徒への対応については、保護者との連絡を密にし早期指導に務めた。</p>	
<p>2 自ら進んで行動し、社会性や公共心を身に付け、地域社会に貢献できる豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>(1) 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>(2) 人権を尊重する豊かな心を持つとともに、高め合う集団の一員としての自覚を持ち、中心となって活躍できる実践力を育成する。</p>	<p>①生活記録の徹底活用、学年教科担任間の連携を図る。</p> <p>②定期考査前には、弱点教科の補講を実施して、苦手な教科の補強をめざす。また、欠点保有者との面談を行い、欠点の多い生徒については保護者を含めた三者面談を実施し改善策を検討する。</p> <p>③ホームルーム活動や学年集会において、適切な進路指導を行う。また、生徒の悩みや不安を把握し助言できるような調査方法および支援体制を確立する。</p>	<p>①日々題・週末課題・補習を実施し、授業への連動を図っている。生活記録は、各クラス実態に即して工夫し活用している。</p> <p>②1・2学期ともに弱点補講を実施し、弱点教科の補強を目指した。2学期中間考査の欠点保持者においては担任面談や4者面談を実施した。1学期末11名、2学期末35名(24名は弱点教科補講外)。すべての教科に真摯に取り組む姿勢が必要である。</p> <p>③進路課の生活実態調査を活用して、進路講演会や学年集会を実施し、進路実現に向けての意識を高めている。いじめアンケートを活用しカウンセリングが必要な生徒には保健・教育相談課等と連携して指導にあたっている。</p>	<p>(評定)</p> <p>C</p>	<p>価値観や考え方が多様化する中、生徒もまた物事の判断の基準に変化がみられる。学校・学年で指導を統一し継続した指導が必要である。理解し自らが納得したうえで主体的に行動できる力の育成が不可欠である。</p> <p>教室で孤立しがちな生徒、悩みを抱える生徒には早期対応・指導により心に寄り添うよう配慮が更に必要となっている。</p> <p>人権意識の向上にむけてホームルーム活動を中心として、日常生活の中で意識を高める必要がある。また、2学期にクラス単位で行う人権ホームルームを計画し、自分の言葉で人権について考える時間設定の検討を重ねたい。</p>
	評価指標	評価指標による達成度	<p>①1名の生徒が持病が原因で月5回の遅刻があった。頭髪・服装検査では、若干名が軽微な指導を受けたが、その都度改善されている。</p> <p>②1学期は3回実施(修学旅行関連の集会を含む)、2学期は4回実施(コース・科目選択・生徒指導および進路関係)しており、よりよい学校生活を送る契機となっている。</p> <p>③「あてはまる」と答えた生徒の割合は70.4%であり、目標値には至らない。</p>	
活動計画	活動計画の実施状況	<p>①全ての教員が生徒の生活指導に関わり、指導・支援する。また、多遅刻者、早朝補習の多欠席者について保護者にも協力を求める。頭髪・服装検査で違反の目立つ生徒については、担任・学年主任・生徒課長・学年団が情報を共有し、指導する。</p> <p>②学校行事や集会において、主体的に取り組む姿勢や人間関係を大切にしたい行動がとれるよう指導を行う。</p> <p>③人権問題学習を通して、人権意識の高揚と人権を尊重する態度の育成を図るとともに、あらゆる機会を捉え、人権感覚・国際感覚の育成に向けて全ての教員で支援する。</p>	<p>(所見)</p> <p>学年団が重点目標の達成にむけて、共通理解のもと、根気強く取り組むことができた。関係各課ともに連携を図りながら指導にあたっている。</p>	

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	総合評価	次年度に残された課題と方策
<p>1 進路目標の明確化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成して、進路実現を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①進路目標を明確にできるように個人面談をクラス担任を中心に学期に2回以上行う。</p> <p>②生活記録等を有効活用し、平均家庭（自主）学習時間を200分以上にする。</p> <p>③就職希望者との面談を定期的に行い、卒業時において、全員の就職を達成する。</p> <p>④進路実現に向けて、進路課と連携し、学期に1回以上進路検討会を開く。</p> <p>⑤アンケートにおいて、「徳島北高校で3年間を過ごしてよかった」と答えた生徒の割合を、90%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①個人面談を学期に2回以上行い、生徒の進路や生活について相談・指導をした。</p> <p>②生活記録を活用し、平均家庭（自主）学習時間は、2学期の単純平均では219分であった。昨年度より目標時間を20分増やしたが、目標を達成できた。</p> <p>③就職希望生は、全員就職できた。</p> <p>④進路検討会を、各学期に1回以上実施し生徒の進路目標等について情報を共有することができた。</p> <p>⑤アンケートにこの項目はないが、「学校生活は充実しており、目標を持って授業や行事に主体的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は83.6%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） A</p> <p>（所見） 学年全体で生徒の進路目標実現のために連携して取り組むことができた。</p>	<p>家庭学習時間については、本年度、目標値を上げたので、来年度はこの目標値でよいと思うが、どの時点の数値を使うかで、平均が変わるので、その検討が必要であろう。</p> <p>評価指標の設定も再検討する必要がある。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①個人面談をクラス担任を中心に計画し、必要に応じて、教科担任・部活顧問・養護教諭等の協力も得て実施する。</p> <p>②「生活記録・学習計画」の記録をする時間をホームルーム活動等で設け、常に振り返る習慣をつけさせる。</p> <p>③④⑤進路課と学年団が情報の共有を図り、生徒一人一人が持っている個性や創造性も生かした進路実現を支援する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教務・情報課、進路課、関係の先生方と協力し個人面談を計画的に実施することができた。</p> <p>②「学習生活記録表」を各ホームルーム担任が有効に活用することで、生徒の進路意識の高揚に繋げることができた。</p> <p>③④⑤進路課との連携のもと、進路検討会を実施することで生徒の進路情報や進路指導の方法を共有し、よりよい進路実現に活かした。</p>		
	<p>評価指標</p> <p>①月5回以上の遅刻者をゼロにする。</p> <p>②服装頭髪の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を1%以下にする。</p> <p>③学校評価アンケートで「自らあいさつができる」と答えた生徒の割合を、90%以上にする。</p> <p>④学校評価アンケートで「清掃に協力して取り組んだ」と答えた生徒の割合を、90%以上にする。</p> <p>⑤学校評価アンケートで「友好的な人間関係を築けている」と答えた生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①月5回以上の遅刻者はゼロであった。</p> <p>②学年集会等の頭髪・服装指導で違反するものは、ほとんどいなかった。その割合は1%程度である。</p> <p>③学年毎の結果は出ていないが、全体では78.7%であった。</p> <p>④アンケート項目にはないが、「日々の清掃活動に熱心に取り組み、ゴミの分別を心がけるなど校内の美化に協力している」では、80.8%であった。</p> <p>⑤アンケート結果では、87.9%であり、目標値には届かなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>（所見） 3年生になり進路に向けて、多くの生徒が頑張ることができた。数名の生徒が、欠席が増え補講が必要な状況になったが、担任の粘り強い指導で、全員が卒業できる目途が立った。</p>	
<p>2 基本的な生活習慣の確立を図り、人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築けるようにする。</p>	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		<p>学年全体の連携を深めるために、学年会や担任会を設定できる時間を検討する必要がある。</p>

	<p>①常に保護者との連絡を密にし、協力を得る。</p> <p>②生活習慣や服装頭髪の改善については、本人の自覚を促すのはもちろん、保護者の協力も得られるように連携を図る。</p> <p>③会釈や挨拶が生徒自らできるようになるために、教師からも挨拶や声かけをするように心掛ける。</p> <p>④清掃分担の明確化や手順の指導を図る。</p> <p>⑤不適切な言動に対しては、学年団で早めに対応し、良好な人間関係が再構築されるように各方面からの態勢を整えて指導に当たる。</p>	<p>①気になる生徒には、担任から保護者に連絡をし、協力を得た。</p> <p>②頭髪・服装指導において再点検となった生徒には、説諭しルールを守ることの大切さを自覚させた。欠席が多かったり、成績が不振な者は保護者に連絡をして、必要に応じて来校して頂き協力をお願いした。</p> <p>③集会では、まずあいさつから始めた。折に触れてホームルームでも担任からあいさつの大切さを話した。</p> <p>④どのクラスとも清掃計画を作り、清掃の徹底を図った。</p> <p>⑤外部からの指摘には、ホームルーム担任をはじめ関係教員が連携をして対処することができた。</p>		
--	--	--	--	--

(3) 教科
ア 国語科

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	総合評価	次年度に残された課題と方策
1 家庭学習の習慣をつけさせ、自主的に学習する態度を育成する。	<p>評価指標</p> <p>①週末課題の提出率を70%以上にする</p> <p>活動計画</p> <p>①(7) 生徒の実態に応じた適切な量や内容の課題を与える。 ①(イ) 実力テストと週末課題の範囲を一致させ、計画的な学習を意識させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①1年生は90%以上、2年生は平均75%の達成度であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①(7) 生徒の実態に応じた適切な量や内容の課題を考慮した。 ①(イ) 実力テストと週末課題の範囲を一致させての課題を与えた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 学校で取り組ませる毎日の課題としたものは提出率がよいが、家庭学習の習慣として取り組ませ自主性を育成する目標としたものは提出率がそれより低くなっている。家庭学習習慣が十分でない生徒が多くなっている。</p>	<p>実力テストに対する意識が低い生徒が見受けられる。課題となっている範囲を確実にしていくことで実力をつけていくという意識をしっかりと持たせたい。</p> <p>全体的に家庭学習習慣が十分でない生徒が多くなっているために、補習や日々題の形式で学校させようとしている傾向が高まっているが、家庭学習でじっくりと取り組ませることも大切である。</p>
2 授業を工夫して学習意欲を喚起し、基礎学力をつけさせる。	<p>評価指標</p> <p>①学校評価アンケートで、授業内容を「よく理解できている」「まあまあ理解できている」と答えた生徒を85%以上にする。 ②授業にアクティブラーニングを適宜取り入れる。</p> <p>活動計画</p> <p>①調べ学習や言語活動を充実させ、生徒相互の学習を促す。 ②授業の中で自ら考えたり、表現したりする時間を持つ。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①学校評価アンケートで、授業内容を「よく理解できている」「まあまあ理解できている」と答えた生徒は、国語科の全体の平均で81.8%であった。 ②授業でアクティブラーニングを学期に数回は取り入れた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①取り入れができなかった先生もいたが、取り入れた授業では取り組み方は自主的であり、班でまとめたことを発表もできた。 ②適宜取り入れた授業ができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 学校評価アンケートの「授業内容理解度」に関して数値目標達成ができなかった。原因として、「予習をきちんとしている・ときどきしている」が26.9%と低いこと、「復習をきちんとしている・ときどきしている」が47.2%と十分でないことが大きいと考えられる。授業でアクティブラーニングを取り入れる等の工夫をしていることもあり、わかりやすい授業の実施に肯定的な回答が、全体で77.3%あった。</p>	<p>「授業内容理解度」が昨年度より低い原因は、所見にも書いたように、予習・復習の家庭学習が十分でない生徒が増えていることが大きいと感じる。実力テストに向けた毎日の課題や週末課題だけでなく、授業内容理解度を高めるプリント等の工夫をして確認する必要もある。</p> <p>ICT（電子黒板）やプリント・視聴覚教材等をさらに効果的に利用する中で、思考する・表現する時間を少しでも多く作っていくように努めたい。</p>
3 様々な視点や豊かな表現に触れ、自分なりの発展的な学力の伸長につなげる。	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>図書館や図書館の本の有効利用をすることで有意義な学習活動のあり方ができている。今後</p>

	①読書感想文、新聞感想文等の提出率を85%以上にする。	全体として、95%の提出率であった。	(評定) A	ますます発展的な学力の伸長に、図書館にある本・雑誌・新聞等の資料を授業にも活用したい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 11月から、切り抜き可能な数か月の徳島新聞を図書館に置いて、コピー可能な毎日・朝日と共に、生徒が利用した。また、先生方の選んだ新聞記事を利用する生徒もいた。	
	①(ア) 図書館を利用した学習を実施し、調べ学習や読書を促す。 ①(イ) 長期休業中には読書感想文、新聞感想文等を課し、作品として文章にまとめさせる。	①(ア) 図書館を利用して新聞記事を探したり、幅広いジャンルの本出会う機会を与えた。 ①(イ) 読書感想文は夏休み課題と取り組み、新聞感想文は、2学期末に授業の中で取り混ぜ、共に応募することもできた。		

イ 地歴・公民科

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	総合評価	次年度に残された課題と方策
1 演習課題、単元テストなどを実施し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	家庭学習に取り組むように引き続き指導していきたい。理解度や授業充実度は8割を超える。生徒が興味・関心を持って学習に取り組めるよう、電子黒板を活用した学力向上に取り組みたい。
	①演習課題の提出が95%以上にする。	①演習課題の提出は、91%であった。	(評定) B	
	②家庭学習をしている生徒の割合を70%以上にする。	②予習をしている生徒の割合24.0%、復習をしている生徒の割合41.9%であった。	(所見) 家庭学習をする生徒の割合は他教科に比べ低いですが、課題をしっかりとやる生徒は多い。	
	③定期考査の欠点者数をゼロにする。	③学年末の欠点者数はいなかった。	欠点ゼロとはならないが、期末考査に向けて、学力向上の補習の実施などで解消の努力は行っている。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①②家庭学習習慣を身につけさせ、演習課題を確実に提出することにより、基礎学力の向上につなげる。	①②今後とも継続して取り組んでいく。		
	③単元テストや要点整理プリントを活用し、定期考査で内容の確認を行う。	③達成できた。		
2 自ら考える態度や知識を主体的に使いこなせる表現力を培う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	主体性を生かした授業展開の工夫をさらに進めたい。質問が出てくるような授業展開を電子黒板などを活用し進めていかなければならない。
	①時事問題や社会的事象に興味を持たせ、各学期に1回以上は文章による表現をさせる。	①達成できている。	(評定) B	
	②資料等を活用し、興味・関心を高め、作業学習や思考力を問う問題を定期考査等で1つ以上出題し、論述問題の白紙解答を5%未満にする。	②白紙回答の割合は減っているが、5%未満とはならなかった。	(所見) 論述問題の出題や自主的な論述課題提出により、文章表現する機会は増えた。今後記述量を増やし、文章表現の機会を府やすくつ府が必要である。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①時事問題テストなどを通して、時事問題を身近に感じさせ、社会的事象について自分なりの意見を持たせ、レポート形式で提出させる。	①概ね達成できている。		
	②課題を提示し、その課題を各科目の観点から考えさせ、文章で要約や説明をさせる。	②少しずつだができている。		

ウ 数学科

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策
1 授業の工夫・改善と充実に努め、計画的な家庭学習を促し、確かな学力身に付けさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B (所見) 本年度は、一斉の確認テストではなく各担当で確認テストを行った。それにより、学力が低下したということはみられなかった。 ICTの活用やアクティブラーニングにも取組学力の向上を図っていく必要がある。
	①確認テストの合格率を80%以上にする。 ②授業評価アンケートで「復習を(きちんと・ときどき)している」と答えた生徒の割合を80%以上にする。 ③「授業の理解度」に関するアンケートにおいて、「概ね理解できている」と答えた生徒の割合を80%以上にする。	①1年生は、1学期は全体で実施したが、2学期からは各担当で実施した。2年生も各担当で実施した。そのため概に合格率が80%とは言えない。 ②授業評価アンケートでは、72.9%であり昨年度に比べ微増しているものの目標は達成できていない。 ③授業評価アンケートでは、74.5%であり昨年度に比べ減少した。目標を達成できなかった。	
	活動計画	活動計画の実施状況	
	①単元の学習目標を達成するために確認テストを行う。不合格者(60点未満)に対して再指導・再テストを行い徹底を図る。 ②「週末課題」、「日々題」等を実施する。効果的な学習ができるように内容を吟味し、学習状況に合わせて、取り組みやすい課題を与える。 ③学期ごとに授業の理解度を調査するとともに生徒の声を授業改善に反映させる。	①確認テストの不合格者については、再指導や再テストを実施し、学習内容の定着を図った。 ②「週末課題」や日々題については、計画通り実施できた。 ③学校業評価アンケート結果を、授業改善に繋げている。	

エ 理科

* 総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策
1 理科に対する興味・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けるとともに、科学的なものの見方・考え方を養う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B (所見) 「興味・関心」のある生徒の割合は、昨年度(77.5%)よりは減少し、目標値には達しなかった。実験(演示実験を含む)・観察をできる限り増やしたり、電子黒板を使用するなどの工夫をしたつもりであっても、生徒の興味・関心を高めることにはつながらなかった。
	①実験・観察を年間5回以上実施する。 ② 授業評価アンケートにおいて、興味・関心があると回答した生徒を80%以上にする。	①すべての科目において実験・観察を5回以上実施することができた。 ②「興味・関心がある」と回答した生徒の割合は70.6%であった。	
	活動計画	活動計画の実施状況	
	①生徒が行う実験だけでなく、演示実験もできるだけ実施し、観察・考察の機会を多く設ける。 ②生徒が作成する実験レポートやアンケート等により生徒の理解度・考察力を確認する。	①ほぼ昨年度と同様の演示実験の実施回数を確保することができた。 ②提出レポートの、考察・まとめ・反省欄をこれまで以上に丁寧にチェックした。実験によっては、電子黒板を利用することにより効果的な復習ができた。	
2 学習習慣の定着と学力の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B (所見)
	①授業評価アンケートにおいて、生徒の理解度を80%以上、授業内容の満足度を90%以上にする。 ②家庭学習を平均週2時間以上にする。	①授業評価アンケートにおいて、生徒の理解度を73.9%、授業内容の満足度は79.0%であった。 ②生徒アンケートによる週当たりの家庭学習時間は、ホームルームや時期によって違うもの	

		の、3年生は達成できているが、1・2年生は2時間弱で達成できなかった。	生徒の理解度は昨年よりわずかに増加したものの、授業内容の満足度は、昨年より値を下げた。アクティブ・ラーニング型授業をより多く取り入れたり、電子黒板等をうまく活用するなど、何らかの工夫が必要である。
	活動計画	活動計画の実施状況	
	①アクティブ・ラーニング型授業を各単元に複数回取り入れ、分かる授業の実践に取り組む。 ②小单元ごとに整理プリントや問題演習を与え、授業内容の復習に取り組む家庭学習を促す。	①アクティブ・ラーニング型授業を何回か取り入れ、わかる授業を目指した。 ②各科目とも小单元ごとの確認テストや問題演習を実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。	

オ 保健体育科

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	総合評価	次年度に残された課題と方策
1 普通救命講習を受講させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	普通救命講習については、今後も継承していく。この講習を通して生命を尊重する態度を育て、不測の事態に冷静に対応できる能力を育成していきたい。 国際英語科については、本年度も語学研修出発前に実施することができた。次年度以降も日程について、十分な配慮をもって計画したい。
	①1年生の受講率を100%にする。	ほぼ100%に近いが、本年度に関しては2名受講できず、修了証を渡せなかった。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度は救命士の人数が4～5名で班ごとに1名ついて指導していただけだったので、生徒の取り組みも良好で、救命士の話を真剣に聞くことができた。 欠席生徒には教科担任が、後日個別に指導したが、どうしても修了できなかった者が2名あった。	
2 スポーツテストを利用し、体力の向上を図る。(特に女子の体力強化に重点を置く)	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学年ごとの特色もあるのだが、女子については学年が進むごとに体力が低下することが懸念される。運動部活動への参加も低下傾向にあり、運動部参加についても促していく。男子に関しては3学年男子を中心に素晴らしい。さらに運動部活動への積極的な参加についても促してゆく。 授業においても、十分な運動量を確保できるよう、ランニング・体づくり運動・補強運動などを積極的に導入していきたい。
	①スポーツテストの総合評価C以上を70%以上にする。	①3学年女子以外で達成した。 1年 男子 86.6%, 女子 70.4% 2年 男子 87.9%, 女子 76.2% 3年 男子 93.6%, 女子 68.2%	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 3学年女子以外において目標を達成できた。女子に関しては、昨年度に比較して、全般に低下傾向が見られ、次年度以降が懸念される。男子に関しては、本校生の体力水準は高い	
3 持久走について標準記録達成者を増やす。	評価指標	評価指標によるうえ達成度	総合評価	スポーツテスト同様、女子の体力低下が懸念される。持久走に対する取り組みは男女とも良好であるため、持久走以外の体育の授業についても、基礎体力を向上させるため、体作り運動などを積極的に取り入れる必要がある。女子に関しては、運動部活動への参加も低下傾向にあり、参加について促していきたい。
	①標準記録を男子3Km15分以内、女子2Km12分以内とし、達成した者を全体の70%以上にする。	①1年生・2年生男子では目標値を達成した。 1年 男子76.9%, 女子59.6% 2年 男子81.4%, 女子65.3%	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) スポーツテスト同様、男子は素晴らしい水準であるが、学年ごとの特色もあるだろうが、女子の低下傾向が著しい。男子1kmあたり5分、女子1kmあたり6分野	
	①(7) 持久走の実施時間数8時間を確保する。 ①(4) 毎時間取り組む態度をしっかりと指導す	①(7) 雨天時は体育館で実施する。取り返し補講を実施するなどして時間数は確保でき		

る。 ①(ウ) 体育理論を通じて合理的疾走フォームの理解をさせて実践させる。	た。 (イ) 全体的に真面目に取り組んでいた。 (ウ) 理論と実践の関連づけが効率的にできた。	ペースを基準にしているが、女子について基準の見直しが必要なのかもしれない。
---	---	---------------------------------------

カー1 芸術科（音楽）

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策	
1 授業に意欲的に取り組み、音楽を愛好する心情を育て、感性を高め、主体的な表現活動や鑑賞に取り組む姿勢を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	<p>少人数ではあるが、興味・関心・技能の低い生徒がおり、その生徒に対しての個別的な指導が必要になってくると思う。 合奏などのグループ演奏の際のハード面の充実と効率的な時間配分を考慮していこうと思う。</p>	
	①全授業時数のうち30%以上の時間で、自己評価表又はレポートを提出させる。	①2，3学期はほぼ毎時間自己評価表を記入し、提出させることができた。		（評定） B
	②グループ演奏の全練習量の中に占める「合わせ練習」の割合を30%以上にする。	②どのグループも合わせ練習を30%以上実施できた。		（所見） 授業内容については特定の分野に偏ることなくバランス良く実施できたと思う。そのことがこれからの主体的な音楽活動につながると思われる。
	活動計画	活動計画の実施状況		
①音楽の諸領域を幅広く学習することで、音楽を深く味わおうとする意欲を育てる。	①合唱、合奏、ミュージカル、オペラなど幅広い分野を学習することができた。			
②グループで合わせる練習を通して自分のパートを確認するとともに、メンバーと協力することの大切さを学び、コミュニケーション能力を育てる。	②自分のパートの大切さを感じながら、全体としてひとつのサウンドに仕上げていく中で、意見を出し合ってコミュニケーションがとれていた。			

カー2 芸術科（美術）

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策	
1 授業に意欲的に取り組み、美術を愛好する心情を育てる。さらに感性を高め、主体的に表現活動や鑑賞に取り組む姿勢を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	<p>課題に対する適切な時間設定と道具の充実に問題がある。特に鑑賞教育に関して 機器の整備が欲しい。</p>	
	①授業評価アンケートにおける「興味・関心がある」「充実している」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	①授業評価アンケートにおける「興味・関心がある」「充実している」と答えた生徒の割合が96パーセント以上になった。		（評定） B
	②主体的・意欲的に個性的な自己表現活動に取り組んでいるかを把握するために、作品の進行チェックシートを毎学期の制作作品ごとに提出させる。	②作品の進行チェックシートを毎回提出させ進捗状況の把握ができた。		（所見） 興味・関心を持たせる課題設定と技術の向上に重点を置き、主体的に活動できる生徒を増やすことに向け授業展開できたように思われる。
	③期限までに生徒自身が納得のいく作品を完成できるよう配慮し、作品の提出率を100%にする。	③納得のいく作品を完成できるよう配慮し、作品の提出率を100%になった。		
活動計画	活動計画の実施状況			
①アンケートの結果を参考にし、授業において、興味・関心を持たせる指導を心がける。	①アンケートの結果を参考にし、授業において、興味・関心を持つ生徒が多くいた。			
②適切な助言により生徒の個性的な表現を伸ばすよう心がける。	②適切な助言により生徒の個性的な表現を伸ばすことができた。			

③進行が遅い生徒には放課後、個別指導的な時間を設け、それを補う。	③進行が遅い生徒の個別指導の必要はなく、授業の中で製作・完成できていた。	
----------------------------------	--------------------------------------	--

カー3 芸術科（書道）

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策	
1 授業に意欲的に取り組み、書を愛好する心情を育て、感性を高め、主体的な表現活動や鑑賞に取り組む姿勢を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	<p>書写体験が少なく書写の基本が不十分な生徒が更に増加している。「書写から書道へ」導入部分に時間を費やす必要がある。しかしながら急に実技能力は育成されずに、表現したくても表現できないもどかしさをかかえている。</p> <p>グループ学習をとりいれる等、互いの感性を認め合い書道の視野を広げるように教材を工夫する必要がある。</p>	
	①授業評価アンケートの「興味・関心がある」「充実している」生徒の割合を <u>90%以上</u> にする。	①「興味・関心がある」 1学期2年生98% 2学期1年生79% 「充実している」 1学期2年生93%		（評定） B
	②基本的な知識・技能を身に付け、主体的な表現活動を促し、単元ごとの生徒の作品や自己評価カードの提出率を <u>100%</u> にする。	②授業での提出率は100%である。		（所見） ①1年生の興味・関心が目標値に届かなかった。 書写体験が少ないことを意識して、毛筆の基礎基本から取り組んでみたが不十分であった。2年生は様々な書体を学ぶことにより、書くことを楽しんでいる。 ②授業の目標を理解して、丁寧に作品を仕上げ提出できた。視聴覚機器を用いることにより実技の向上につながった。 ③書道の学習が進むにつれ創作力が高まり、互いの感性を認め合う姿勢が育っている。
③創作力を高め、自己表現としての作品を認め合う姿勢を養うために、 <u>年間3回以上</u> 創作指導を行う。	③各学期生活に生かせる作品や創作作品制作を実施した。互いの作品を鑑賞して認め合う時間を設けた。			
活動計画	活動計画の実施状況			
①校外での書道展の案内や作品の紹介、更に書道の歴史を確認し、多様な教材を取り入れる。	①夏季休業中に文学書道館の特別展を紹介し、鑑賞文の提出を課題とした。書道の歴史を確認し、興味をもたせた。			
②視聴覚機器を用いて範書し、実技の向上を図る。生徒一人一人の個性や創造性をいかした個別指導を行う。	②黒板と視聴覚機器を用い、実技の向上と個性の伸長に取り組んだ。			
③グループ学習の形態をとりいれ、お互いの感性を認め合い尊重する態度と言語活動の充実を図る。	③3学期にグループ学習を多く取り入れ、篆刻やカレンダー制作を行った。授業の中で自分の作品解説を文章にして発表する時間を設けた。3月には、校内で授業展を実施した。			

キ 英語科

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	次年度に残された課題と方策	
1 英語に興味を持ち、自主的に英語学習に取り組む生徒を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	<p>新テストに向けて、アウトプットを重視した指導方法を研究実践する。</p>	
	①英語への関心がある生徒の割合を80%以上にする。	76.7%の生徒が英語に関心があると答えている。		（評定） B
	活動計画	活動計画の実施状況		（所見） 85.3%の生徒が授業に満足していると回答しており、アクティブラーニング型活動やICTの利用についても、85～90%の満足度である。各教員が電子黒板を用いた教材を積極的に授業に取り入れ、生徒のコミュニケーション活動や理解を助けるために使用している。
①生徒の英語への関心を高める、英語学習に積極的に取り組む手助けとなる補助教材等を作成する。	①電子黒板を用いて、海外の映像や写真などを利用し、異文化理解へ関心を高めたり、理解を助けたりした。			
②英語や外国に興味を持てるような異文化学習会を年2回実施する。	②異文化学習会を年2回実施した。			

2 生徒の英語の基礎力を充実させる。 (1, 2年生)	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	取り組んだ内容がさらに定着するよう、教材を工夫し、基礎力の充実を図る。
	①日々題の取り組み率を100%にする。 ②週末課題の取り組み率を100%にする。	①1年生は90%, 2年生は85%の提出率。 ②1年生は85%, 2年生は80%の提出率。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 日々題・週末課題は十分な取組ができた。	
	①日々題を週2回以上課す。 ②週末課題を2週間に1回以上課す。	①日々題を週3回実施した。 ②週末課題をほぼ毎週実施した。		
3 生徒の英語の応用力を伸ばす。 (3年生)	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	アウトプット活動を増やし、英語を用いて効果的なコミュニケーションできる力を伸ばす。
	①語彙力の強化と英作文力の強化を図る。	①語彙力の強化と英作文力の強化に向けて継続的な取組ができた。	(評定) A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 十分な取組ができた。	
	①日々題を用いて、ポキャビルと英作文を3年生全員に課す。	①各定期考査で、自由英作文の問題を出題した。日々題で英単語の復習を行った。		

ク 家庭科

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	総合評価	次年度に残された課題と方策	
1 生活に必要な基礎的な知識や技術を習得させるとともに、生活の充実向上を図る能力を育成し生活の自立をめざす。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	授業における実験・実習の実施率は平均して目標を達成することができたが、実験・実習を多く取り入れることができる単元とそうでない単元との差がある。実験・実習を多く取り入れることで、生徒の技術力の向上や、コミュニケーション能力を向上させることができた。次年度は、学習内容を工夫し、単元ごとの実験・実習率を50%に近づけることが課題である。さらに、思考判断できる力を育成するためにも、調査・研究といった学習内容を多く取り入れることも課題であると考える。 授業で学習した知識・技術を実生活にいかし生活を見直し改善する意識や態度を持たせ、問題解決能力を養うためにプロジェクト学習の指導をする。 キャリア教育推進のために地域の産業や専門家との連携・協働を図る。	
	①実習・実験を全授業時数の5/10（50%）実施をめざす。 ②成功体験を実感させるために、各種コンクールに1回以上応募させる。 ③ボランティア精神を養うために、防災教育やボランティアに関する授業を1回以上行う。	①実験・実習を全授業の5/10（50%）実施することができたので達成することができた。 ②各種コンクールへの応募は94%以上の生徒が応募することができたので概ね達成した。 ③第1学年では、被服機能の一つである身体保護機能や繊維の加工について学習し、全員が防災加工された防災頭巾を製作した。	(評定) B		(所見) 学習指導要領では実験・実習には調査・研究、観察・見学、交流活動などの学習活動が含まれることとされている。このような学習活動を取り入れることにより、実験・実習を全授業の5/10（50%）実施することができた。 防災頭巾の製作や防災食、災害に強い住まい方等災害を多面的にとらえ、防災についての考えを深めさせることができた。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①(7) 実験・実習を25時間以上取り入れ、基礎的な技術を身に付けさせる。 ①(イ) 学習ノートを活用し、定期的に提出させ、取り組み状況を確認する。 ②コンクールなどに応募し意識の向上を図る。 ③防災教育を取り入れて命の大切さと他者への思いやりやボランティア精神を育てる。	①(7) 被服・調理分野での実験・実習では、より基礎的な技術の習得ができるよう、動画解説を取り入れるなど理解の深化のための工夫を行った。 ①(イ) 学習ノートの考察問題を話し合わせる等、身近な事象について深く考えさせ、さらに発表させることにより、相互の意見について考える機会を設定した。 ②応募率100%に向け、指導を継続している。また、各種コンクールの募集案内を継続し、卒業後の進路に関係する生徒には、意識の向上を図っている。 ③支え合う社会の仕組みや共助について理解させ、他者への感謝や思いやりの精神を育てた。			

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価		次年度に残された課題と方策
1 情報モラルについて理解し、正しく実践する力を身に付けさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	引き続きモラルやマナー、特に著作権保護やSNSの利用に対する意識を高めるために、指導内容を研究発展させていかなければならない。
	①定期考査でモラルに関する問題の正答率を平均80%以上にする。	①期末テストで実施し、正答率は平均で76%であった。クラス間での差が大きく目標を下回ってしまった。	(評定) B	
	活動計画 ①定期的にモラル小テストを行い、知識の定着を図る。 ②情報モラルに関する事例を数多く提示し、意識を高める。	活動計画の実施状況 ①今年度は1回しか実施できないクラスが複数あった ②今年度も単元毎に資料提示ができた	(所見) モラルやマナーへの意識を高めるためには、身近な事例をたくさん提示し、知識を定着させる必要がある。	